

## 鹿部町1人1台端末の利活用に係る計画

### 1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適の学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月)に示されている通り、従来の日本型学校教育を発展させ、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため1人1台端末を活用する。

### 2. GIGA 第1期の総括

本町では、令和2年度に1人1台端末整備及び各学校のネットワーク環境整備を行い、同時に学習支援ソフトウェアを導入し、教職員の負担軽減と持ち帰り学習、AIドリルによる個別最適な学びの実現に努めた。また、Webフィルタリングソフトを導入し、1人1台端末の家庭への持ち帰り時におけるセキュリティの確保や端末の利活用状況の把握が可能となった。

ICTの活用について、当初は教諭間での個人差が生じていたが、ICT活用に係る研修や、ICTに関する知識・指導力を有する教職員が牽引することにより、ICTの積極的な活用が推進され、指導力の平準化が進んだ。

一方、端末の恒常的な容量不足による不具合や起動までに時間がかかることによる授業時間の損失、管内市町において少数派となるOSを採用したことによる教職員の人事異動に伴う負担が課題となっているため、更新端末は管内市町の多くで採用されている動作が軽いOSに変更する。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末環境を引き続き維持し、児童生徒の学びを止めることなく学習できる環境の構築に努め、以下を踏まえた活用を推進する。

#### (1)1人1台端末の日常的な利活用

教職員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力が向上できるよう、指導者用デジタル教科書や授業支援ソフト、AI型デジタルドリルなどICT活用に課する研修を定期的実施し、教職員のスキルアップに繋げる。また、小・中学校において学習者用デジタル教科書を導入し、個別最適な学びの環境を整備するとともに、未来を担う学習者1人ひとりに最適な学びを提供し、主体的な学びの姿勢を育む。

#### (2)個別最適・協働的な学びの実現

児童生徒が「自分で学べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやり取りする場面」において、積極的に1人1台端末を活用できるような環境づくりを行う。さらに児童生徒の個性に応じた学びを進めるために、リーディングDX指定校等の先進的な取り組みについて紹介、各学校において研究が深まるように努める。

#### (3)学びの保障

オンライン授業の実施等1人1台端末を活用することにより、学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒に学習機会を確保していく。また、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に対し、実態に応じて端末を活用した支援を検討する。